

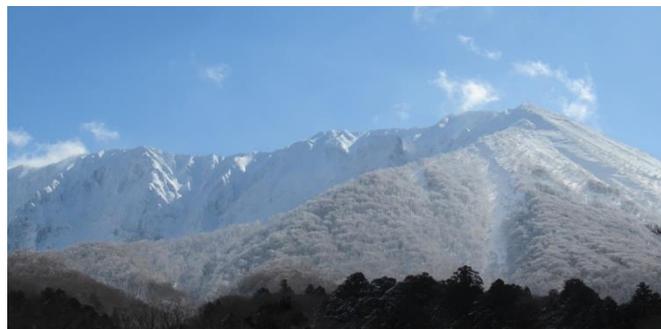
大山の森だより

2021年 冬号

大山は老若男女に開かれた山

大山は女人禁制の山でしたかと質問されることがあります。

日本では信仰の対象とされた山が、女性の参拝を制限されることがあり、富士山や立山、白山、相模大山などがかつては女人禁制の山でした。大山はというと、古くから修験道や仏教の修行地として開かれてきましたが、女人禁制の山ではなかったようです。14世紀中ごろに成立したとされる「大山寺縁起」には、「男女や身分の違いなく誰でも修行できる」と書かれています。ただし金門から上は、大山の中でも聖域として一般人が入るには制限があったようです。特に大山頂上とされる弥山は、江戸時代になると年に1回、弥山禪定の儀式に選ばれた僧侶2名と先達3名しか登ることを許されませんでした。大山寺の僧侶はすべて男性ですので、実質、女性の登山は出来ませんでした。



また江戸時代には冬期(旧暦11月24日から2月15日まで)の女性の大山寺参拝は禁止されました。女性にかかわらず遭難者が多発したのが理由と言われ、米子から大山寺に上る大山観光道路(大山道の一つ)に残る黒松の巨木は、雪深い冬の道標として植えられたとも言われています。

秋期 自然ふれあい事業 活動報告

○豪円山 スピリチュアル秋の花観察会

開催日: 9月25日(土)



初秋の大山・豪円山周辺で秋の花観察会を開催。花言葉を推測するゲームをしながら山道や草原に生える花を観察しました。

○大山寺 阿弥陀堂周辺の謎の遺跡を探る

開催日: 10月16日(土)



阿弥陀堂周辺の古い僧房跡や古代に廃道になった旧上横手道跡などを、最新のレーダー遺跡地図を頼りに探索しました。

○幻の弥山禪定の道を歩く ※健脚向き

開催日: 10月30日(土)



回峰行であった江戸時代以前の弥山禪定の道(推定)を、藪漕ぎしながら踏破しました。天候に恵まれ紅葉も楽しめました。

○大山寺 金門周辺の謎の遺跡を探る

開催日: 11月20日(土)



金門の周辺に残る風穴や中世の雪室、御旅所跡と言われる高台の平地など、一般の人が知らない遺跡を巡り調査しました。

■自然公園財団では、季節ごとに観察会などを開催しています。
予約なしでも参加できるイベントもありますので、是非ご参加ください。
裏面にイベント情報を掲載しています。

大山今昔 「大山牛馬市と博労座」



大山ナショナルパークセンター

大山ではかつて日本三大牛馬市の一つが開催されていました。その場所が大山ナショナルパークセンターのある大山寺地区の博労座(ぼくろうざ)です。博労とは牛馬の販売や仲介を生業とする人のことで、古代中国で牛馬鑑定の達人であった伯楽(はくらく)という人物の音変化とされています。

大山寺は平安時代末頃から牛馬を守ってくれる地蔵菩薩への信仰が盛んになり、各地の農家が牛馬安全の守護札を求めて大山寺に集まるようになりました。そして自然発生的に牛馬の交換や売買などが行われるようになって牛馬市へと発展したようです。

参詣者は徐々に増えていき、牛馬市の規模も大きくなったことから、江戸時代中期(1726年)に大山寺によって組織化されました。それまでは大山寺の祭礼時(春・秋)に牛馬市が開かれていましたが、組織化によって祭礼の前後も博労座で開かれるようになりました。

牛馬市は年数回開かれ、1回あたり3、4000頭の取引があったと言われています。明治に入ってから開設されていましたが、昭和12年(1937年)に廃止となりました。

廃止の理由は牛馬の取引量が減ったこともありますが、廃止の前年に大山が国立公園に制定されたこともあるようです。



江戸時代の大山牛馬市
伝・安藤広重画

大山で大規模な牛馬市が開かれたのは、何千頭もの牛馬が集まっても大丈夫な草原が広がっていたことがあります。

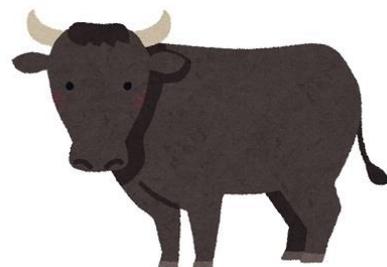


博労座駐車場

現在の大山寺の周りは森におおわれていますが、参詣道である大山道の周りは草原が広がっていたようです。博労座の下にある榎原地区は昭和30年代までは牧場で、牧原(まきはら)と書かれていました。また大山道の一つ坊領道から上る博労座手前は瀬戸と呼ばれていました。草原を海原に、草原から突き出た松が生えた小山を島に見立てたようです。現在、森の中から突き出た赤松が、かつてここが開けた場所だったことを示しています。陽樹である赤松の苗は森の中で育つことはできません。寿命も100年程度と短いので、それまでの様子わかります。

大山の牛馬市は、2016年に「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」として日本遺産に登録されました。

※日本三大牛馬市：鳥取県大山町「大山の牛馬市」、広島県三原市「久井の牛市」、福島県白河市「白河の馬市」



牛馬市の遺産

「大山追掛け節」

岩波文庫「日本民謡集」(1960年初版)で、鳥取県の代表的な民謡として紹介されているのが「大山追掛け節」です。牛馬の売買を行った博労衆(伯楽衆とも)が唄ったそうですが、現在では唄える人がいなくなり、大山自然歴史館の大山牛馬市の紹介映像には倉吉市に伝わる「高城牛追掛け節」が使用されています。どんな曲だったのでしょうか。

「大山追掛け節」 ※3番歌詞

伯耆大山目に立つものは 金の鳥居に金の蓮華の手水鉢 下から水が湧き上がる
何処の誰方の御奇進か 東伯耆は瀬戸村の
名字は竹信 名が左衛門 お山で代々名を残す
大神山となあたらかな 少し下りて伯楽座(ぼくろざ)で 杉の木檜木のその中で
伯耆や因幡の伯楽衆が 袖の下から値をきめて お手々たたいて何百両
これで伯楽がやめらいよか



※金の鳥居=銅鳥居

1782年造立。現在は大神山神社参道の途中にあります。当初は博労座上の現・宮本旅館前の参道に置かれていました。1933年に博労座の下の大山道に移転し、1961年に大山有料道路(現・大山観光道路)の工事に伴い現在の場所に移転しました。



※金の蓮華の手水鉢=蓮型青銅の手水鉢

1761年奉納。大山寺山門横で現在も使用されています。



【コラム】 大山観光道路のクロマツ並木

大山観光道路(米子市尾高から大山寺博労座)には江戸時代に植えられた黒松の巨木が何本か見られます。観光道路は大山寺参詣道の一つである尾高道と一部が重なっており、黒松の巨木は大山寺中興の祖である豪円僧正の発案で、1602年に雪深い冬の道標として植えられた松並木の残りです。もう一つの参詣道である坊領道(大山口から大山寺博労座)にも黒松並木があったそうで、現在、道幅が急に広がっている箇所が黒松の跡だそうです。

ちなみに黒松は普通、海岸に生える松です。ごつごつした黒い木肌にがっしりとした枝ぶりが特徴です。赤松よりもずっと寿命が長く、女松と呼ばれる赤松に対して男松と呼ばれます。大山寺周辺で見られる黒松は人が持ち込んだものです。

イベント情報（1月～2月）

■自然公園財団のイベント

<p>○スノーシューで行く大山・幻の滝(稚児滝) 開催日：1月9日(日) 9:00～12:00頃 会場：豪円山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	 <p>かつて呼瀧山と呼ばれた豪円山。その幻の滝を見に行きます。垂直の岩壁に張り付く氷が神秘的な美しさ。大山の隠れた名所です。スノーシュー歩行距離約2キロ。 定員15名 自然観察</p>
<p>○幻の御旅所？から絶景を見るスノーシューツアー 開催日：1月30日(日) 9:00～12:00頃 会場：大山寺金門周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>御旅所とは神が巡行する聖なる地。古地図で御旅所跡と描かれる高台の平坦地を目指します。高台から見る美保湾は絶景。巨大な風穴(氷室)も探検します。スノーシュー歩行距離約2キロ。 定員：15名 歴史探訪</p>
<p>○スノーシューで行く 願掛け地蔵へ願いを込めに 開催日：2月13日(日) 9:00～12:00頃 会場：金門・賽の河原・寂静山周辺 集合場所：自然公園財団事務所前 参加費：1500円 ※スノーシューレンタル料別途1000円</p>	<p>かなえない願いはありますか？大山に伝わる願掛けの方法で願掛け岩とそのそばに佇む地蔵まで願いを込めに行きましょう。 スノーシュー歩行距離約3キロ。 定員15名 癒しの体験</p> 

スキーシーズンに向けて博労座第1駐車場の拡張工事が完了しました。



駐車場拡張区域の駐車台数は120台ほど。
 駐車場全体(立体駐車場含む)では1000台程度駐車可能です。
 12月18日からスキー場営業終了日までは有料ですが、それ以降は無料となります。
 だいせんホワイトリゾート・スキー場は昨年と同じくエリアを縮小して営業します。

シーズン中のシャトルバス料金

(牧原駐車場・大山 NPC 往復)
 大人500円(高校生以上)
 子供200円(小中学生)
 ※年末年始・土日祝運行予定

※駐車料金など、駐車場についてのお問い合わせは
 大山観光局(0859-52-2502)
 ※スキー場に関するお問い合わせは
 だいせんホワイトリゾート(0859-52-2315)

一般財団法人 自然公園財団 鳥取支部 大山事業地



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山40-33
 大山ナショナルパークセンター(大山 NPC) 1階
 TEL:0859-52-2165 FAX:0859-52-2370
 URL <http://www.bes.or.jp/daisen/>

